時事新報

驛遞局認可（定價三錢）

明治十八年六月三日 水曜日
（西暦一千八百八十五年）
第九百八十五號
日曜日休刊

時事新報定價（日曜日バカリ休刊）
一枚金三錢〇一箇月前金六十五錢〇三箇月前金一圓八十錢〇六箇月前金三圓四十錢〇一箇年前金六圓五十錢〇郵便税一箇月金廿六錢一箇年金三圓十二錢〇左ニ掲グル各地ニ於テハ郵送無料ニテ配達致候
東京　横濱　横須賀　從神奈川至小田原各驛　大坂　京都　大津　神戸　岡山　廣島　和歌山
其他同地近傍配達便宜ノ場所ハ同シク郵送料不申受候

時事新報廣告料（前金）
〇二日以上六日間以内一行ヨリ十行迄一行ニ付一日分金八錢、十一行ヨリ三十行迄一行ニ付一日分金七錢、三十一行ヨリ五十行迄一行ニ付一日分金六錢、但シ六日間以上繼續ノ分ハ定則一割引、十五日間以上同斷同一割五歩引、三十日間以上同斷同二割引
〇一日限廣告一行ヨリ十行迄一行ニ付一日分金十錢、十一行ヨリ三十行迄同金九錢、三十一行ヨリ五十行迄同金八錢、五十一行以上同金七錢

賞勲叙任

〇明治十八年四月七日
勲四等賜旭日小綬章　元老院議官從四位勲五等　安藤則命

〇明治十八年六月一日
敍從五位　正六位勲六等　坂部長照
任農商務少書記官　正七位　農商務權少書記官　河上謹一

時事新報

東京圖書館

外國貿易上ノ所知ヲ廣クス可シ

國ヲ富マサントセバ外國貿易ヲ盛ニセザル可ラズ外國貿易ヲ盛ニセントスルニ就テハ種々ノ工夫方案アル可シト雖ドモ差當リ必要ナルハ我外國貿易商ヲシテ取引先キノ事情人氣ヲ熟知セシムルヿ是ナリ試ニ看ヨ今日マデ外國貿易ニ明ナル商人ノ少ナキガ爲メ我日本國ノ貿易上ニ損多ノ顚挫ヲ生セシヤモ知ル可ラズ先年我國ノ商人中ニテ直輸出ノ肝要ナルヲ悟リ一時之ヲ米國ニ試ミタルモノモアリシカド其試驗ノ上、失敗多クシテ引キ合ハズトノ申分ニテ過半ハ斷念失望セシモノヽ如シ然ルニ内々樣子ヲ聞ケバ直輸出必ズシモ引キ合ハザルニ非ズ唯其直輸出ニ從事セシモノガ米國商賣社會ノ模樣ヲ知ラズ取引上ノ權衡事情等ニモ餘リ精シカラザリシガ爲メ直輸出品ノ買捌方ハ一ニ之ヲ米國人ニ托シテ己レハ傍ヨリ其消息ヲ窺ヒ居ルガ如キ始末ニテ活潑ナル米國商賈ノ爲メニ忽チ其隙ヲ附ケ込マレ、過分ノ手數料ヲ取ラレ、非常ノ直踏ミヲ申出サレ、先ヅ第一ノ我貿易者、初度ノ手合セニ失敗セシヨリ一モ二モナク直輸出ハ得失相償ハズトノ評判ヲ立テタレドモ其實ハ直輸出ニ從事セシモノガ外國貿易ニ不明ナルノ罪ナランノミ斯カル商人相群シテ外國商人ト利ヲ爭ハンカ、內國ノ製造者ニテハ如何ニ盡力シテモ如何ナル產物ヲ如何樣ニ製造スレバ外國人ノ好尚ニ適ス可キヤヲ知ラザルガ爲メ貿易上ニ大利ヲ占ムルヿハ思ヒモ寄ラズ次第ナラン、凡ソ商品ヲ製造スルハ喩ヘバ大工ガ材木ヲ到ルニ異柱ハ何寸角ニシテ何ノ處ニ立テ、其間居ハ何尺ニシテ此ノ場所ニ置クヲ可シト初ヨリ寸尺体ノ見込ミヲ附ケタルガ如ク豫メ之ヲ販賣スル場所ノ人氣ヲ察シテ品ノ大小精粗共ニ其好尚ニ投スルヿ極メテ大切ナリ即チ我國ノ商人中ニハ商賣先キノ人氣ニ注意スルモノ案外ニ少ナク之レガ爲メ當サニ占ムベキノ利ヲ失ヒ終ニ盛ナラントスルノ業ヲ萎マシタルノ事例ハ一ニシテ足ラズ今米國トノ商賣ニ就テ其一例ヲ擧ゲンニ我國ノ陶器ハ米國ヘノ賣レ口盛ク年々其價值ヲ騰揚スト聞キ我陶器商等ハ特ニ命シテ數十ノ花瓶ヲ製造セシメ之ヲ米國ぼすとん府へ差シ送ラント企圖シタリシガ米國人ハ花瓶ノ模樣トシテ日本復古ノ歷史書ヲ好ミ例ヘバ八幡太郎ガ花ヲ勿來關頭ニ咏ズルノ圖、新羅三郎ガ笙ヲ足柄山上ニ弄スルノ圖ノ如キ其圖ニ就テ種々ノ美談アルモノヲ貴重ストノヿ抔固ヨリ聞キモ及ハザリシカバ其花瓶ニ楓橋夜泊寒山寺ノ模樣ヲ寫シ江上ノ曉色林抄參差、鐘樓高ク出ツルノ邊ニ十字ノ寒鴉ヲ乱點セシモノヲ燒キ附ケシニ花瓶ぼすとん府ヘ到着ノ上、米國人ノ評ニ此圖畫中ニハ寒鴉ノ乱點セシ所アレド鴉ハ糞穢ヲ啄ムノ鳥ナレバ斯カル鳥ヲ畫キタル花瓶ハ以テ美賞ノ飾付ケト爲スニ足ラズ抔トテ敢テ之ヲ購求スルモノナク之レガ爲メ其荷主ハ大ニ破損シタリトノ談アリ即チ圖畫形色ヲ專要トスル花瓶商ガ販賣先キノ好尚ニ注意セズシテ商賣上損失ヲ致リタルノ一例ナレド其他、事ノ之レニ類スルモノ亦極メテ多キヿナラン又支那トノ商賣ニ就テ之ヲ言フモ之レニ類スル事例甚ダ多シ頃日支那ノ事情ニ明ナル人ノ言ヲ聞クニ初メ我國ノ摺附木ハ廣ク支那ニ賣捌ケ塲處ニ由リテハ家々之ヲ用井ザルモノナキガ如キ勢ナリシガ近來ニ至リテハ上海（シャンハイ）及ヒ其他ノ塲處ニテ西洋人又ハ支那人ノ製造スル摺附木ニ壓倒セラレ其ノ輸出高非常ニ減額スルヿトハナレリ蓋シ在支那ノ西洋人等ハ早クモ支那人ノ好尚ヲ看テ取リ勉メテ其外觀內飾ヲ美ニシ箱ハ丸形ニシテ奇麗ナル紋形アル洋紙ヲ張リ附木ハ一本毎ニ之ヲ創リ燐ハ五色ニ染メ付ケタリ其一本トシテ磨物ナキニ至テハ唯燐ノ多少ニ關スルモノナリト雖ドモ支那人ハ未ダ其燐ノ危險ナルヲ知ラザルヲ以テ單ニ其內外ノ形容美麗ナルト一本トシテ廢物ナキヲ見テ日本摺附木ノ製粗ニシテ廢物多キモノヲ購求セザルニ至リタリトノ次第ナリ右等ハ唯貿易上ノ一二品ニ關スル事例ナレドモ其他之レニ類スルモノ極メテ多分ナリトスルモノハ我外國貿易商ガ取引先キノ事情人氣ヲ熟知セザルガ爲メ我貿易上ニ損害ヲ生スルヿ決シテ鮮少ナラザル可シ左レバ我國ノ商人中ニテ苟モ外國貿易ニ從事スルモノハ其商品ノ取引先キニ就テ委細人氣事情ヲ取リ調ベ又其取引先キニ往來スル人々ニ就テ其所知ヲ叩ク等最モ其意ヲ致サヾル可ラズ又我開港塲ナドニアル商業學校、講習所等ニテハ唯書籍上ニテ其生徒等ニ商業ノ智識ヲ授クルノミナラズ卒業ノ前後ニハ何樣カノ手續ニテ外國貿易事務見習ノ爲メ極々手輕ニ香港、紐育、龍動、里昂等ノ外國商館ナドニ給事周旋スルヿヲ得ル樣ニ取扱ヒ商學成テ一個獨立ノ商業ニ取掛ルマデニ實際上外國貿易ノ所知ヲ廣クルヿヲ得セシメタラバ唯夫レ丈ケニテモ幾分カ我外國貿易ヲ擴張スルノ一助ト爲ル可キヤ疑ヲ容レズ我國ノ外國貿易ニ從事スルモノハ大ニ此邊ニ注意アリタキモノナリ

雜報

〇武官免補　山地陸軍少將野崎陸軍少將其他の人々は此程左の通仰付られたり

大坂鎭臺司令官　陸軍少將　山地元治
免本職補步兵第二旅團長　廣島鎭臺司令官　陸軍少將　野崎貞澄
免本職補步兵第十二旅團長
補步兵第三聯隊長　步兵中佐　大寺安純
補砲兵第五聯隊長　砲兵中佐　竹橋尚文
補步兵第…聯隊長　步兵中佐　井上正方
免本職補中部監軍部參謀　近衛參謀　近衛步兵少佐　小島政利
補步兵第十五聯隊第一大隊長　步兵少佐　西島助義
仝第二十聯隊仝　仝　兒玉如忠
仝第十四聯隊第二大隊長　仝　馬屋原務本
仝第十二聯隊第三大隊長　仝　平佐良藏
仝第十一聯隊第二大隊長　仝　山縣錦太郎
仝第六聯隊第一大隊長　仝　山本盛英
仝第五聯隊第二大隊長　仝　吉田清一
仝第二十聯隊第二大隊長　仝　木下忠信
近衛步兵第二聯隊醫官兼東京陸軍病院治療課長　中泉正
免本職補近衛步兵第一聯隊醫官　名古屋陸軍病院長二等軍醫正　小島政憲
東京陸軍病院出仕兼勤被免候事　二等軍醫正　小島政憲

〇東京大學御用掛　大坂府平民九里龍作氏は一昨一日文部省に於て東京大學准奏任御用掛（月俸金百圓）東京大學理學部勤務仰付られたり

〇アストン氏朝鮮より歸りたる理由　朝鮮京城駐在英國總領事アストン氏か病氣の未だ全く平癒せざるにも拘はらず去月廿八日を以て神戸と去りたるよし既に本紙上に記載せしが右は英外務卿グランヴヰル伯より直接に朝鮮に歸り事務を執るべき旨の訓令を受取りたるに由るなりと

〇將軍憐士　今は米國のサンフランシスコに於て醫師を業とせるマクリーストといへるは彼の南北戰爭の折にロツれ義勇兵とありグラント將軍の手に屬し戰功も少なからざりし人あるが此程同氏の實話なりとて人の物語るを聞くにある時將軍は南軍に籠りたるウヰクスボルクの城を攻落さんとヨングれ野に陣を張られたる折凡そ士官たるものはウヰクスボルクの落城迄と決して休暇を許さずとの軍令を發せられぬ余も一人の最愛なる女兒を持ちたるが一日ロツの家なる妻の許より急書到來して君もし生前にウヰンニー女を見んとあらば早く家に歸り給へと云ひおこせり余も之の報知を得て何卒して生前に今一目娘の顔を見んものと種々に手を盡し休暇の事を周旋あまたるに思ひの外に都合よき模樣なれば大ひに喜び願書を副將軍シールマン氏の許に差出したるに思きや將軍は唯一言の下に兵士たるものは戰時に於て妻子を顧みるべからずと言ひ拂はれたれば余が失望は云はん方なく最早此上の手段はあるまじと思ひたるが現に角將軍グラント氏の處に行て見よと此事に無益とは思ひながら將軍に見ゆる事に決したり此時將軍は本營は此處より四分の三英里程隔りたる川上れ小舟の中にありしかば余は案内者と共に程遠あらくも晴夜雨を冒して其所に到り人をもて面會の事を申入たり余も是時迄將軍は堅固一轍の人なれど余が一縷の望も最早絶ゆるならんと思ひ居たるに豈に圖らんや將軍はイトヽ快よき顔色にて親切に余を待遇し余が委曲の事情を語るを聞き目元の濕ひたると覺しき聲にて語ひたると見れば將軍は深く余が情話に感ぜられたるものと見えたり將軍は遂て筆を執り二十日間休暇を與ふる旨の命令書を認し終り余を顧みて汝もしこの日數より長く家に滯留したる折には歸後自身にゆくと余に告げられよ余は眞に汝が女兒れ病の汝の思ひしよりも輕からん事を希望するなりと云ふて別を告られたりかくて余は將軍の許を得急ぎロツの家に歸りたるに余が最愛の汝兒は既に十日以前に死し其埋葬も終りたる後なりし

〇米國の船舶條例　米國華盛頓府よりの近報に目下當府にある元老院及代議院の議員は奨勵事件に付航海船舶に關する條令を實行せる爲め臨時國會を開く事と必要なりと考へ居れり聊時米國々旗の保護に依りて航海する外國の船舶は海上何との地に於ても米國の支配を受くべしそのには其船舶と抱くものあらざ如し…

々とありたり

〇英國軍艦の立往生　英國の…
と知られたるモナーク艦は木…
去る四月廿八日を以てマルタ…
出帆したるに其速力著る遲…
る事能はず翌日に至りくれ漂…
タ島より二百五十里前れ處に…
をば止むを得ず危難の合圖と…
の日に至りて其邊を通り掛り…
マルタ島迄牽行かんと企たる…
進行そる能はず依てモナーク…
日漸他の汽船に助けられて…

〇京都通信　五月廿八日附京…
來月五日に彌々移轉式と執行…
懇親會を催ふし七日には中學…
に同二日三日は琵琶湖疏水起…
く都合なり〇近來洋銀の下落…
の取引を見合せ洋銀を買入…
圓、大坂にては五十餘萬圓買…
來安泊りと云ふものあれど京…
下の不景氣よりか大佛前六條…
數人の客に房一間と蒲團一枚…
ひ强賣り夜店張りの小民は皆…

〇福井近況　五月廿七日越前…
井縣下には頃日麻疹病漸次流…
するの有樣なるより縣廳にて…
手したり〇目下の不景氣にて…
學兒童の數を減せり其筋にて…
も其效驗著しからずといへり…
馬の流行して處々競馬の會あ…
りたりといへり

〇名古屋通信　五月廿八日附…
本縣令には一昨二十六日午前…
の屬官を隨へて四日市へ赴き…
京丸にて上京したり〇本縣下…
二十五日より本縣議事堂に於…
決主大谷光尊氏と一昨二十六…
日當區來着れ筈なりしが雨天…
ならん〇當名古屋監獄署內の…
餘人の大數にて署內の餘地な…
僅に日覆ひを爲しく監外に業…
其筋にては更に數棟增築れ計…
にて見合せとなり本縣土木課…
庫と借り入れてこれに充つる…
より本縣廳并郡役所等の通…
知わりし以來洋服れ新調日々…
の繁昌にて裁縫職工の如きは…
の十二時まで引續き營働しろ…

〇漁業の改良　近來愛知縣和泉…
て漁獲の數ハ年々に減少し困…
めに多數れ貧困者と生ずるよ…
漁具の有害より起るもの…
に如うずとて同郡れ勸業課に…
と設け其有害と認むるマカセ…
ととあし（是は魚兒の成長を…
害なり）又ウタセ及び上月網…
漁の魚と他海へ退出すの害…
の法を設けんとて不日其利害…
夫中より總代と撰擧して集會…
中する都合なりと云ふ

〇土中より寶金　京都府下…